

### 第3節 まとめ

最後に、この章で明らかになった点を要約しておく。

① 成績の自己評価は中レベルに集中するが、中学になるとバラツキが増えてくる。

② 成績向上への意欲はきわめて旺盛だが、中学に入ると自己限定が進み、自信も若干低下する。

③ 「努力信仰」が広く深く浸透している(とくに、女子に顕著)。中学に入ると、勉強のテクニックが重要視されるようになる。

④ 体育・家庭・芸術関係の教科に人気が集まり、中学・高校になると嫌いな教科が増える。教科の好き嫌いの男女差は、中学校で顕著になり、高校になると「女子の理数系嫌い」が進むことで拡大・固定化する。

⑤ 理解度は中学・高校と学年が進むにつれて低下するが、がんばりたい教科も主要5教科に集中するようになる。

⑥ 勉強の悩みはとくに成績下位者で深刻であり、中学になると上手な勉強法を求める

生徒が急増する。さらに、高校では、学習内容の意味を問うような悩みが頭をもたげてくる。

⑦ 中学生にとって、一生懸命勉強することは出世に役立つと考えられ、とくに成績上位者でこの傾向が強い。

よくいわれるように、中学になると学力や勉強への構えの個人差が拡大してくる。高校や大学受験を控え、学習内容も高度化するのにもよって、勉強のテクニックを習得したいという願望にかられる。しかも、成績のよしあしは「努力」によって決まるという「努力信仰」が広く浸透している。学習することの意義が希薄なものとして生徒の目に映ってくるのもこの時期である。受験のための勉強と割り切る姿勢やほどほどの学力でいいという態度がマジョリティを占めつつある現在、学習の方法だけではなく学習の内容にまで踏み込んで再検討してみる必要がある。

(本文) 研究の経過 3-1 表

調査項目	調査時期	調査対象	調査内容	調査結果	調査の意義
① 成績の自己評価	1995	中学生	成績の自己評価	中レベルに集中	学習意欲の向上
② 成績向上への意欲	1995	中学生	成績向上への意欲	きわめて旺盛	学習意欲の向上
③ 「努力信仰」	1995	中学生	「努力信仰」	広く深く浸透	学習意欲の向上
④ 教科の人気	1995	中学生	教科の人気	体育・家庭・芸術関係	学習意欲の向上
⑤ 理解度	1995	中学生	理解度	学年が進むにつれて低下	学習意欲の向上
⑥ 勉強の悩み	1995	中学生	勉強の悩み	成績下位者で深刻	学習意欲の向上

